⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、1,833億円の受取超過であって、前年同期（518億円の受取超過）に比べ、1,315億円受取超過額が増加した。収入は、前年同期（２兆7,698億円）に比べ、7,517億円増加して３兆5,215億円となった。一方、支出は、前年同期（２兆7,180億円）に比べ、6,201億円増加して３兆3,382億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

保険の収支は、収入11兆685億円、支出17兆3,911億円、差引き６兆3,226億円の支払超過であって、前年同期（７兆4,413億円の支払超過）に比べ、１兆1,186億円支払超過額が減少した。

3　国債等・国庫短期証券等（別表１参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成27年度第１・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	362,483	203,935	158,547	367,468	193,654	173,814
国債(１年超)	346,965	190,546	156,419	353,978	182,309	171,669
借入金	15,518	13,390	2,128	13,490	11,345	2,145
国庫短期証券等	1,021,785	841,447	180,337	1,095,451	880,664	214,787
国庫短期証券	906,285	725,947	180,337	969,451	754,664	214,787
一時借入金	115,500	115,500	△ 0	126,000	126,000	0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、15兆8,547億円の受取超過であって、前年同期（17兆3,814億円の受取超過）に比べ、１兆5,266億円受取超過額が減少した。国債（１年超）の収支は、発行34兆6,965億円、償還19兆546億円、差引き15兆6,419億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入１兆5,518億円、償還１兆3,390億円、差引き2,128億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、18兆337億円の受取超過であって、前年同期（21兆4,787億円の受取超過）に比べ、３兆4,450億円受取超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行90兆6,285億円、償還72兆5,947億円、差引き18兆337億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆5,500億円、償還11兆5,500億円、差引き０億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 20,445	△ 124,195	△ 144,640
特別会計等	△ 110,464	141,810	31,346
財政投融資	△ 4,913	30,318	25,405
外国為替資金	1,833	△ 4,665	△ 2,832
保険	△ 63,226	61,137	△ 2,089
その他	△ 44,157	55,020	10,862
小計	△ 130,909	17,615	△ 113,294
国債等	158,547	△ 8,703	149,844
国債(１年超)	156,419	△ 7,529	148,890
借入金	2,128	△ 1,174	955
国庫短期証券等	180,337	△ 8,911	171,426
国庫短期証券	180,337	2,000	182,338
一時借入金	△ 0	△ 10,911	△ 10,911
合計	207,976	—	207,976
調整項目	△ 2,583	—	△ 2,583
総計	205,393	—	205,393

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成年27度第１・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 209,593	△ 228,967
特別会計の債券売・買(△)	58,727	50,283
財政投融資	5,550	18,520
国債整理基金	53,177	31,763
その他	△ 62,296	△ 71,621
計	△ 213,162	△ 250,304

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、21兆3,162億円の支払超過であって、前年同期（25兆304億円の支払超過）に比べ、３兆7,143億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

1　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達１兆9,153億円、資金返済22兆8,746億円、差引き20兆9,593億円の支払超過であって、前年同期（22兆8,967億円の支払超過）に比べ、１兆9,374億円支払超過額が減少した。

2　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、５兆8,727億円の受取超過であって、前年同期（５兆283億円の受取超過）に比べ、8,444億円受取超過額が増加した。財政投融資は、5,550億円の受取超過であって、前年同期（１兆8,520億円の受取超過）に比べ、１兆2,970億円受取超過額が減少した。国債整理基金は、５兆3,177億円の受取超過であって、前年同期（３兆1,763億円の受取超過）に比べ、２兆1,414億円受取超過額が増加した。

3　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、６兆2,296億円の支払超過であって、前年同期（７兆1,621億円の支払超過）に比べ、9,325億円支払超過額が減少した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（20兆5,393億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（2,583億円の支払超過）を除いた収支は、20兆7,976億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、21兆3,162億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（１兆7,969億円）に比べ、5,186億円減少して１兆2,783億円となった。